一般質問

## ・歩道の段差解消について

阿形 昭

**問** 信号待ちをしていると、驚く光景を目にした。横断歩道を渡り終えた母親が、ベビーカーを真上に持ち上げているのである。歩道と車道のわずかな段差に苦労している。

ベビーカーだけでなく、車椅子やシニアカーなどを使用している障がい者や高齢者にとっても、歩道の段差は障害であり危険な場所となっている。バリアフリーに配慮した整備ができないか

**答** 国土交通省のバリアフリー法に基づく道路構造に関する基準である「移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令」に基づいて設計を行っています。段差は2センチメートルと謳われています。

**問** 2センチメートルの段差は視覚障がい者のためである。視覚障がいの人が多いことは知っているが、私は御前崎市で白杖を使う人を見たことがない。むしろ、視覚障がいのある弱視者にとって、段差はつまずく危険な場所になっているのではないか

**答** 視覚障がい者の安全歩行のために、車道と歩道を明確にさせています。

**問** 最近できた歩道は段差がありすぎて困っている人が多い。自転車で通学している中学生の安全走行のためにも段差をなくした方がいい。全国的に段差を解消している状況を踏まえ、信号交差点や自転車通学中学生の走行通学路、御前崎支所の段差を解消すべきではないか

**答** 道路をめぐる基準は変わることがあります。自転車の利活用の促進、基準の変更を注視して対応していきます。

歩道と車道の段差

一般質問

## ・下水道の今後のあり方について

植田浩之

**問** 当市の下水道は、浜岡地区で農業集落排水として佐倉地区の平成3年の供用開始から始まり、公共下水道として池新田地区の平成7年の供用開始、そして平成18年新野地区の供用開始と整備されてきています。最初に整備された佐倉地区においては、間もなく30年を経過することとなり、他地区の施設を含め老朽化が懸念されています。

近い将来、施設の改修も発生し、それに伴う費用も膨らんでいくのではないでしょうか。昨年度の下水道事業決算をみますと、一般会計より下水道、集落排水への補助金は合わせて4億9千165万円と多額の補助を繰り入れ運営されています。以前のように市の財政も潤沢ではなくなってきています。

今後、人口が減少し、市の財政も縮小に向かい徐々に施設の老朽化が進む中、施設の在り方及び健全経営を見据えた下水道料金の改定をどのように進めていくのか

**答** ご指摘のとおり、最も古い佐倉処理施設につきましては、供用開始から約30年が経過しており、他の施設も含め老朽化により年々膨らみ続ける維持管理経費が課題となっています。

今後は施設の統廃合や長寿命化を進めていきます。

下水道料金改定についてですが、現在、下水道事業会計の約半分の47％を繰入金に依存した状況です。また、施設の老朽化に伴う更新費用の増大や、人口減少などに伴う料金収入の減少が見込まれるなど大変厳しい状況を迎えています。

こうした中、本年度は将来にわたって安定的な事業継続を目指し「経営戦略」を策定しています。

この戦略を踏まえ、来年度には上水道事業と合わせて「上下水道料金検討委員会」を設置し、料金改定を検討したうえで、適正な受益者負担をお願いするとともに、施設統廃合など投資の合理化を図っていきます。